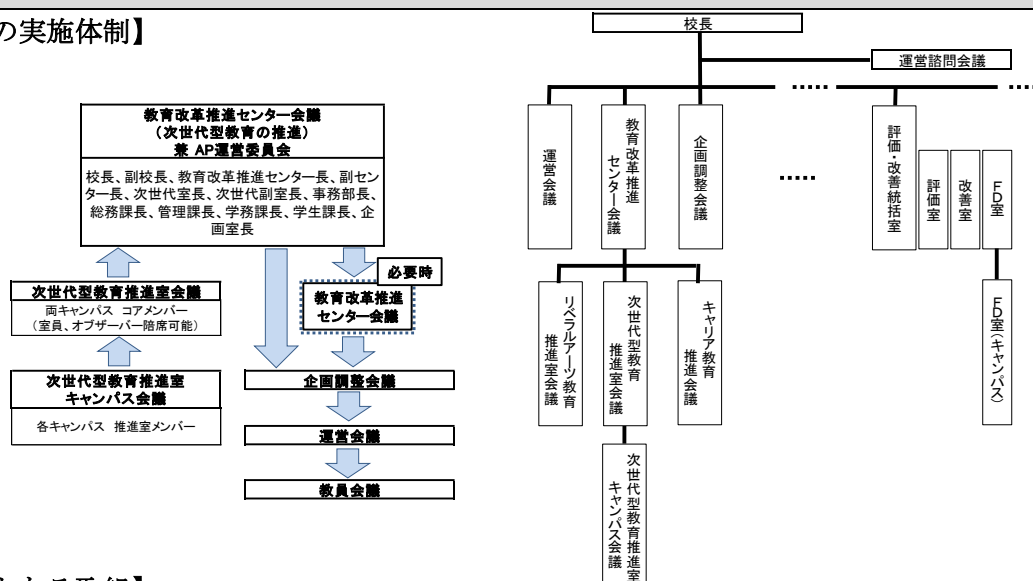


進捗状況の概要（1 ページ以内）

【学内の実施体制】



【中心となる取組】

- (1) A³(A キューブ)学習システムの実践と評価、(2) 教員の教育能力開発、(3) カリキュラム開発
- (4) 教育インフラと実践支援体制の整備、(5) 情報発信、(6) ジェネリックスキル分析

【取組の成果】

- (1) A³(A キューブ)学習システムの実践と評価
A³学習システムに基づき取組を行った結果、アクティブ・ラーニング(AL)型授業科目割合が83%となり、当初目標を上回る成果となった。学年進行に応じたPBLを設計開発し受講可能とした。
- (2) 教員の教育能力開発
教員の教授スキルや授業設計スキルの向上を目的に、研修・勉強会をFD室と連携して実施した。更に、学生の主体的活動を促すための教育能力向上研修を教員が自発的に推進するまでに至り、AL導入を加速した。その結果、学生との十分な意思疎通による信頼関係構築が更に促進できた。
- (3) カリキュラム開発
AL型授業、PBL、マイペース完全習得学習からなる教育システムの実現に向け、AL型授業では各教員の授業再設計、PBLでは問題解決型学習およびプロジェクト型学習のカリキュラム開発・導入方法構築・実践、マイペース完全修得学習ではコンテンツ制作・学内公開を更に実施した。
- (4) 教育インフラと実践支援体制の整備
効果的なAL実施のため、AL教室整備および普通教室改修(無線LAN、ホワイトボード、プロジェクタ整備、仮想大教室システム整備)を実施した。更に学習教材配信サーバを整備して学内配信を実現した。また教授スキル向上研修を行える教員が30%以上となり実践支援体制が整備された。
- (5) 情報発信
学会発表に加え、小中学校・高校・大学教員参加のもとフォーラム、研修、公開授業を開催した。
- (6) ジェネリックスキル分析
学生のジェネリックスキルを指標として、AL要素との相関を3年間分析した。輩出人材像に基づき、強化するAL要素を客観評価して、学生への説明や授業改善に活用し、改革を加速している。

【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】

平成29年度より移行した、学生が自主的かつ横断的に種々の分野を学習可能な新カリキュラムであるコース制と本事業の連携による相乗効果により、更なる改革加速を進める。

【学内外への波及効果】

全国高専へ実践展開した。宮城県、仙台市、名取市の教育委員会と連携、取組を情報発信した。